

■ 東京大学、京都大学図書館機構に次いで、**国内機関として3例目!** ■
関西大学アジア・オープン・リサーチセンター(KU-ORCAS)が
デジタル画像の相互運用国際規格・IIIF コンソーシアムに加盟!
~世界最高水準の東アジア文化研究拠点として、さらなる飛躍へ~

このたび、世界最高水準の東アジア文化研究拠点を目指す関西大学アジアオープンリサーチセンター(KU-ORCAS)が、デジタル画像の相互運用における国際規格 IIIF (International Image Interoperability Framework: トリプルアイエフ) コンソーシアムに加盟することになりました。国内機関としては、東京大学、京都大学図書館機構に次いで、**3例目(私立大学では初)**となります。

**本件の
ポイント**

- ・KU-ORCAS が、デジタル画像の相互運用における国際規格 IIIF(トリプルアイエフ)に加盟
- ・IIIF に加盟するのは、国内機関では東京大学、京都大学図書館機構に次いで3例目
- ・KU-ORCAS はデジタルアーカイブ化を通じて、東アジア文化研究のさらなる飛躍を目指す

IIIF とは、Web 上で公開される画像データを広く共有するための国際規格です。IIIF コンソーシアムには、バチカン図書館をはじめ、フランス国立図書館、米国デジタル公共図書館(DPLA)、ハーバード大学、ゲティ財団、オックスフォード大学ボドリアン図書館など世界各国から 50 を超える機関がすでに加盟しており、全世界で3億3,500万点以上のIIIFに準じた画像データが公開されています。

KU-ORCAS は、2017年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業に採択され、東アジア文化研究に関するデジタルアーカイブの構築ならびに社会に開かれたオープン・プラットフォームの形成に取り組んでいます。同センターでは、IIIF が今後デジタルコンテンツの国際規格の標準になると予想し、同規格の採用および同コンソーシアムへの参加を決定しました。

今後ますますの世界最高水準の東アジア文化研究拠点としての発展を目指し、IIIF コンソーシアムの活動を通じた国際的なデジタルコンテンツの標準化の発展に貢献していきます。

■ **IIIF 規格に対応することによって、具体的にどうなる?**

特長として、まず同じビューワー内に他機関の IIIF 対応資料画像を同時にみることができるようになります(下図イメージ)。さらに、アノテーション(いわゆるメモ)機能を追加することも可能で、それによりメモを共有できることが大きな利点になっています。したがって、資料の比較研究が容易となるほか、多様な立場の人の様々な解釈を共有できるようになるメリットが生まれます。



<デジタル化資料の画像を一つのビューワに表示したもの。※画面は開発中のもの>
 (左から KU-ORCAS、バチカン図書館、イギリス・オックスフォード大学ボドリアン図書館所蔵)

以上

この件に関するお問い合わせ先

関西大学 総合企画室 広報課

担当: 寺崎、浦田

〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35 Tel.06-6368-0201 Fax.06-6368-1266

www.kansai-u.ac.jp